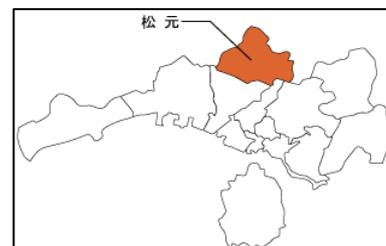


6-13.松元地域

(1)地域の概要

本市の西部に位置し、多くの丘陵と渓谷からなり、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山地で構成されています。

人口は、約1万7千人で増加傾向にあり、人口増加率が市全体で最も高く、また、年少人口比率が20.6%、平均世帯人員が2.7人と、いずれも市全体で最も高くなっています。



(2)緑に関する現況と課題

地域南部の一団の山林やそれらに囲まれた山あいの茶園や水田などの良好な農業生産環境が残されており、緑被率が78.6%と、市全体の69.2%を上回っており、緑に恵まれています。

一方、地域北部の県道沿線を中心に市街化が進展しており、小規模な宅地造成等により茶園などの緑が失われつつあります。

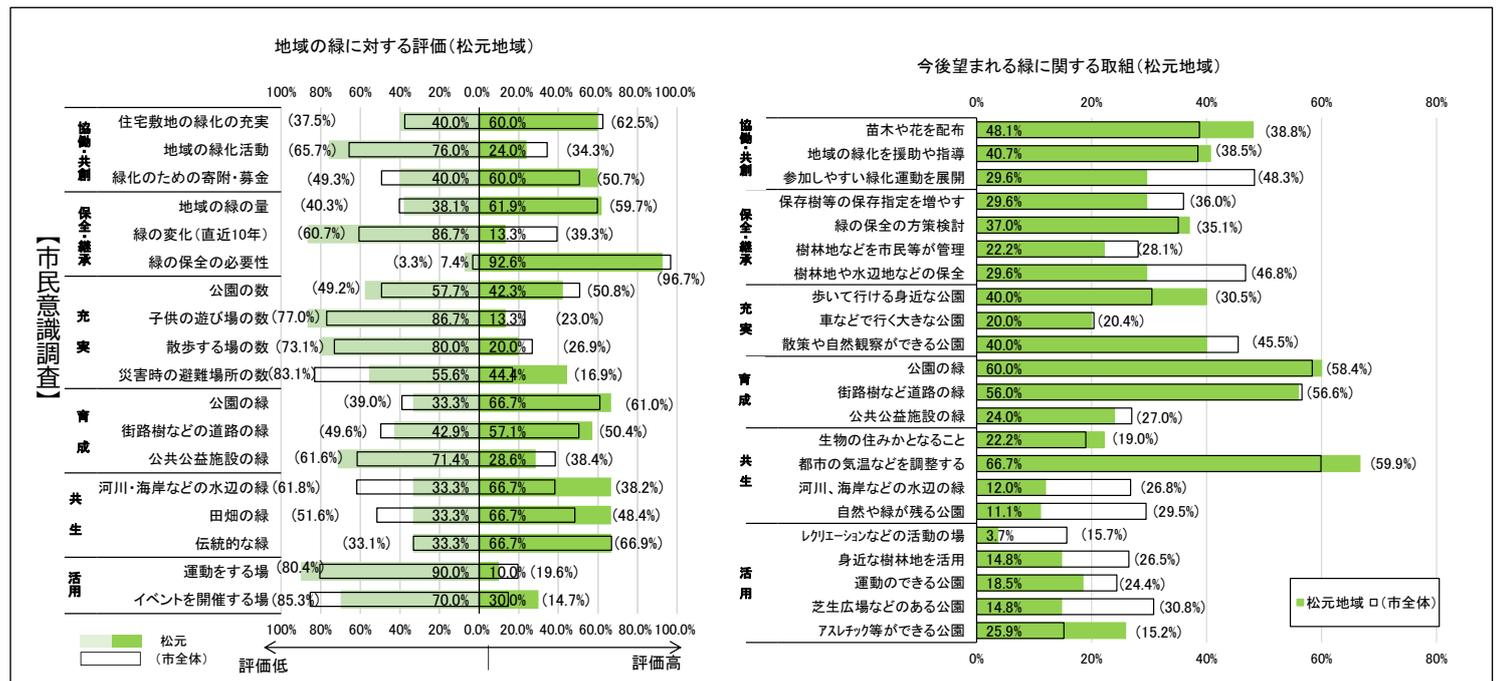
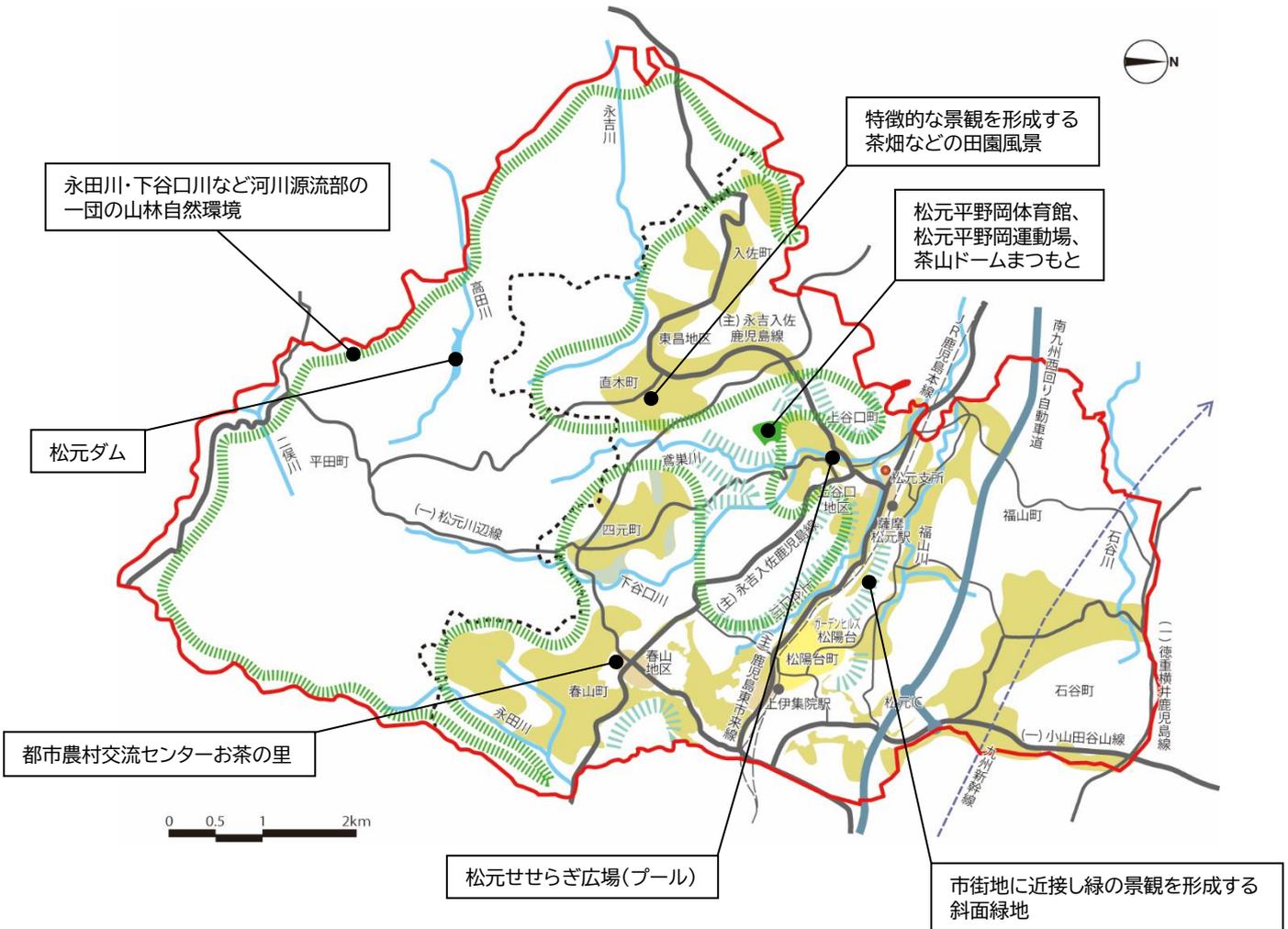
地域内の都市公園は15箇所あり、1人当たりの都市公園面積は3.0㎡/人で、市全体の7.9㎡/人に比べ低い状況となっていますが、都市公園以外に松元平野岡体育館・運動場や都市農村交流センターお茶の里など、レクリエーション施設やグリーン・ツーリズム施設が整備されています。

市民意識調査結果をみると、「緑の保全が必要」と考える市民の割合が高い一方、「直近10年間の緑の量」が減った、「子供の遊び場」、「散歩する場」等としての公園・緑地が少ないと考えている市民の割合が高くなっています。また、緑による「都市の気温などを調整」する機能の向上や、「公園」や「街路樹等の緑」の育成・創出を望む市民の割合が高くなっています。

松元地域の特徴的な結果としては、上記のほか、市全体と比べ、「災害時の避難場所」としての公園・緑地や「河川等の水辺の緑」が多いと感じている市民の割合が20%以上高く、「田畑の緑」や「イベントを開催する場」としての公園・緑地が多いと感じている市民の割合が10%以上高くなっている一方、「地域の緑化活動」への参加意向は、10%以上低くなっています。また、今後利用したい公園として「アスレチック等ができる公園」を挙げる人の割合が、10%以上高くなっています。

これらのことを踏まえ、豊かな自然環境や良好な農業生産環境を保全・活用するとともに、小規模な宅地造成に対する保全方策を検討するほか、身近な緑の育成・創出や調和のとれた公園・緑地の配置拡充、レクリエーション施設等を生かした交流の促進を図る必要があると考えられます。

【松元地域の緑に関わる主な資源】



(資料) 第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープランの策定に関する市民意識調査(令和2(2020)年度)

(3) 緑に関する方針(松元地域)

良好な農業生産環境等の保全・活用と

都市農村交流センターお茶の里等を生かした交流の促進

地域南部の一団の山林自然環境や良好な農業生産環境、緑豊かな集落景観を保全するとともに、身近な緑を育成・創出するほか、住民ニーズに応じた調和のとれた公園・緑地の配置・拡充、都市農村交流センターお茶の里や松元平野岡運動場等を生かした交流の促進を図ります。

(4) 基本方針ごとの主な施策・事業

〈1. 協働・共創〉

- 花と緑の彩り活動の促進
- 公園愛護活動や街路樹愛護活動の普及拡大

〈2. 保全・継承〉

- 緑地保全制度の活用（河川区域、農業振興地域整備計画や森林整備計画に基づく取組、特定用途制限地域の活用及び開発許可の規模引下げの検討）
- 保存樹等の保護の推進（松元小学校内）
- 緑の維持・保全によるうるおいのある都市景観の形成等の推進
- 緑の維持・保全による防災・減災等の推進

〈3. 充実〉

- 緑のレクリエーション拠点の公園等の充実（松元平野岡運動場、都市農村交流センターお茶の里）
- 公園・緑地のバリアフリー化等の推進
- 公園施設長寿命化計画の推進
- 地域の実情に応じた公園・緑地整備の推進（民有地等の借上げによる公園整備等）

〈4. 育成〉

- 民間施設の屋上・壁面緑化の促進と制度拡充の検討
- 街路樹及び公園樹の再生（質の転換）
- 地区計画の活用による緑化の促進（ガーデンヒルズ松陽台地区、ロハスの杜地区等）
- 公共施設の屋上・壁面緑化等の推進
- 学校校庭の芝生化等の維持・保全（松元小・中、春山小、石谷小、東昌小）

〈5. 共生〉

- 学校や地域における環境学習・環境教育の促進

〈6. 活用〉

- 市民農園としての活用（松元さしきばる農園）
- グリーン・ツーリズムの推進
- 企業等による公園・緑地等の活用（松元平野岡運動場、松元せせらぎ広場）
- イベント等による公園・緑地等の活用（都市農村交流センターお茶の里、松元平野岡運動場）

【松元地域の緑の方針図】

